

健康講座

RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス感染症とは？

岩倉市医師会 永吉 昭一



小児の乳児肺炎、喘息性気管支炎、毛細気管支炎を引き起こす原因ウイルスは、冬季に流行するRSウイルス（RSV）、春から夏に流行するヒトメタニューモウイルス（hMPV）がその頻度から見ると重要ですが、そのほかにライノウイルス、最近ではエンテロウイルスD68も注目されています。

RSウイルス感染症は、毎年8月中頃から流行しはじめ、11月、12月にピークとなります。2歳から3歳までにほとんどの乳幼児が感染する病気です。一方ヒトメタニューモウイルスは3月ごろから流行し始め4月～6月にピークとなります。

両方のウイルスも感染後4日から5日の潜伏期を経て、鼻水、咳で始まり4日から7日間の高熱の上下を繰り返す時にはインフルエンザと同じように2峰性の発熱が見られます。喘鳴を伴い呼吸困難になることも珍しくなく、夜間咳で眠れないこともしばしばです。肺炎、細気管支炎で入院するケースも多く、特に2歳以下では重症化しやすい病気です。解熱してから4、5日でふつうは咳もおさまってきます。6か月以下

下の赤ちゃんは母親からの移行抗体があるため症状は高熱がみられなく喘鳴だけのこともあります。入院されるケースも珍しくありません。32週以前出生の新生児はRSウイルスに関しては予防薬（シナジス）を注射して予防することができますが、ヒトメタニューモウイルスには予防薬はありません。

診断方法…インフルエンザと同じように、鼻からとった鼻腔ぬぐい液から迅速で判断できる方法が確立し、両ウイルスとも外来で簡単に検査できるようになりました（保険適用が困難な場合も）。迅速検査の結果と年齢や病気の経過や症状、レントゲン所見などから医師が総合的に判断します。

治療方法…残念ながらRSウイルス、

ヒトメタニューモウイルスに効くお薬はありません。発熱や呼吸器症状を和らげるための対症療法が主体となります。去痰剤や気管支拡張剤を処方することがあります。鼻詰まりがあれば鼻水を吸い取ってください。加湿器などで部屋の湿度を調節して呼吸が楽になるように工夫してあげましょう。